

武蔵野市障害福祉についての実態調査の報告【速報版】

1 調査の概要

- ◇調査目的 令和8年度に武蔵野市障害者計画・第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画を策定するにあたり、基礎資料及び日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料として活用するために実施した。
- ◇調査対象者 身体障害 : 身体障害者手帳所持者で「つながり」送付対象者
知的障害 : 愛の手帳所持者で「つながり」送付対象者
精神障害 : 精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療（精神通院）受給者で「こころのつながり」送付対象者
難病・特定疾患 : 医療費助成（難病・肝炎・小児慢性）受給者
児童 : 障害児通所支援サービス受給者（児童発達支援・放課後等デイサービス）及び上記4区分対象者のうち、18歳以下の者
- ※令和7年11月1日現在の状況。
- ◇調査期間 令和7年12月3日(水)から12月23日(火)まで
- ◇調査方法 郵送配布・郵送回収またはWEB回収併用（督促を兼ねたお礼状を1回発送）
- ◇回収状況 配布数3,000件（無作為抽出） 回収数1,850件 回収率61.7%（令和4年度回収率62.6%）

<区分別の回収状況>

区 分	発送数（件）	有効回収数（件） （うちWEB回答）	有効回収率 （うちWEB回答率）	前回回収率
身体障害	1,334	827(229)	62.0%(17.2%)	64.6%
知的障害	354	231 (90)	65.3%(25.4%)	66.1%
精神障害	528	276(121)	52.3%(22.9%)	54.4%
難病・特定疾患	462	305(135)	66.0%(29.2%)	66.4%
児童	322	211(143)	65.5%(44.4%)	55.0%
合計	3,000	1,850(718)	61.7%(23.9%)	62.6%

2 結果の概要

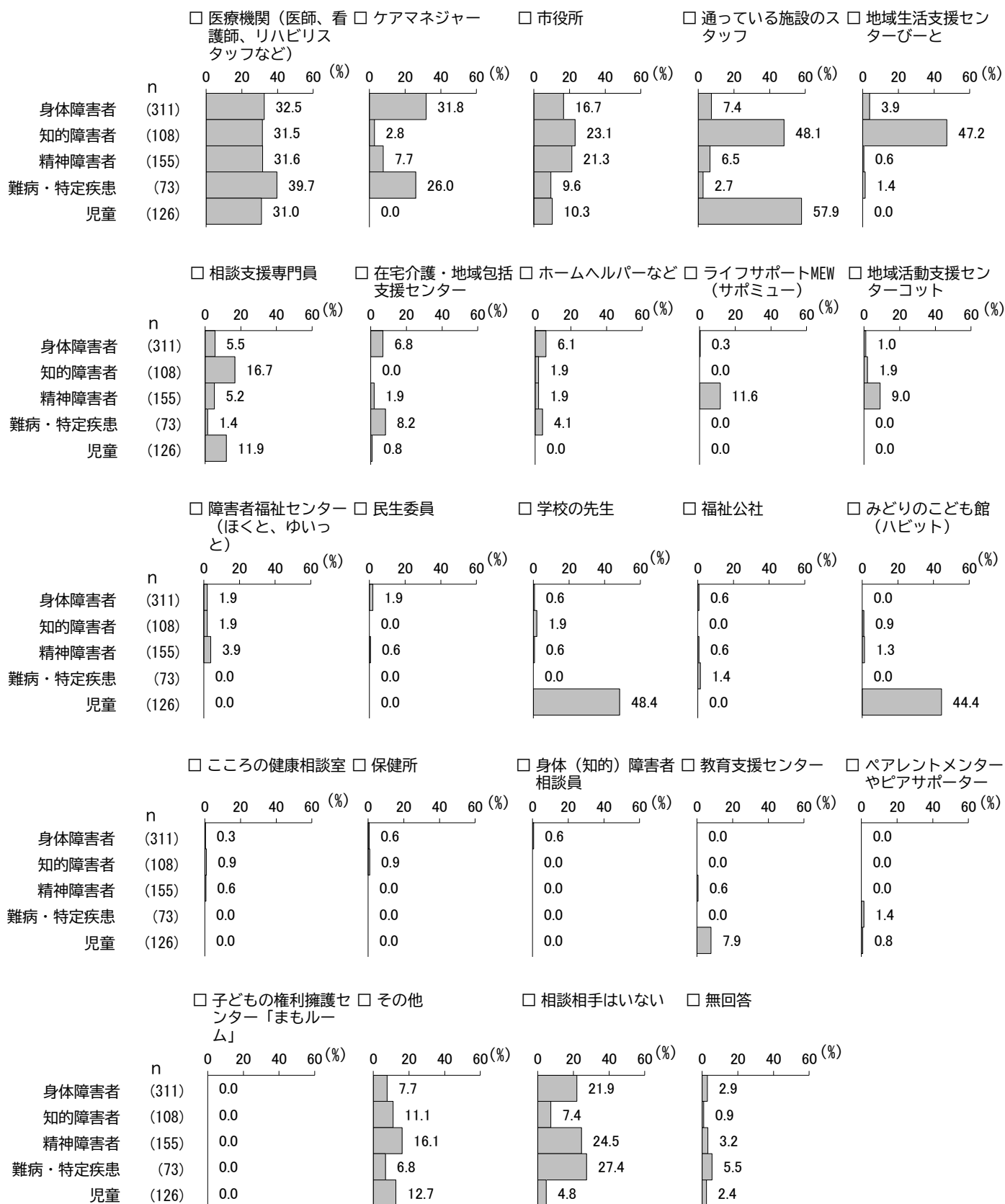
（1）本人の年齢

本人の年齢は、身体障害者では「75歳以上」が52.0%を占める。知的障害者では「19～29歳」「30～39歳」がそれぞれ3割を超え、精神障害者では「50～64歳」が4割超、難病・特定疾患では「50～64歳」「75歳以上」が2割台、児童では未就学児が3割、就学児が約7割となっている。

	n	0～5歳	6～18歳	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
身体障害者	827	-	-	1.7	3.4	5.9	16.4	19.7	52.0	0.8
知的障害者	231	-	-	33.3	32.0	17.3	10.8	2.2	1.7	2.6
精神障害者	276	-	-	5.8	9.1	19.2	42.4	13.4	8.7	1.4
難病・特定疾患	305	-	-	3.6	9.5	12.8	28.2	19.7	25.2	1.0
児童	211	30.8	69.2	-	-	-	-	-	-	-

(2) 相談相手の有無

相談相手の有無は、障害種別ごとに相談先の分布に違いが見られる。身体障害者と難病・特定疾患では、「医療機関」「ケアマネジャー」への相談割合が高い。知的障害者では、「通っている施設のスタッフ」「地域生活支援センター」となどへの相談割合が高い。精神障害者では、「医療機関」に加え、「市役所」「ライフサポートMEW」「地域活動支援センターコット」などへの相談が一定割合みられる。児童では、「通っている施設のスタッフ」「学校の先生」「みどりのこども館（ハビット）」が高い。「相談相手はいない」の回答は、身体障害者、精神障害者及び難病・特定疾患で2割を超えている。



(3) 本人の就労状況【障害者調査のみ】

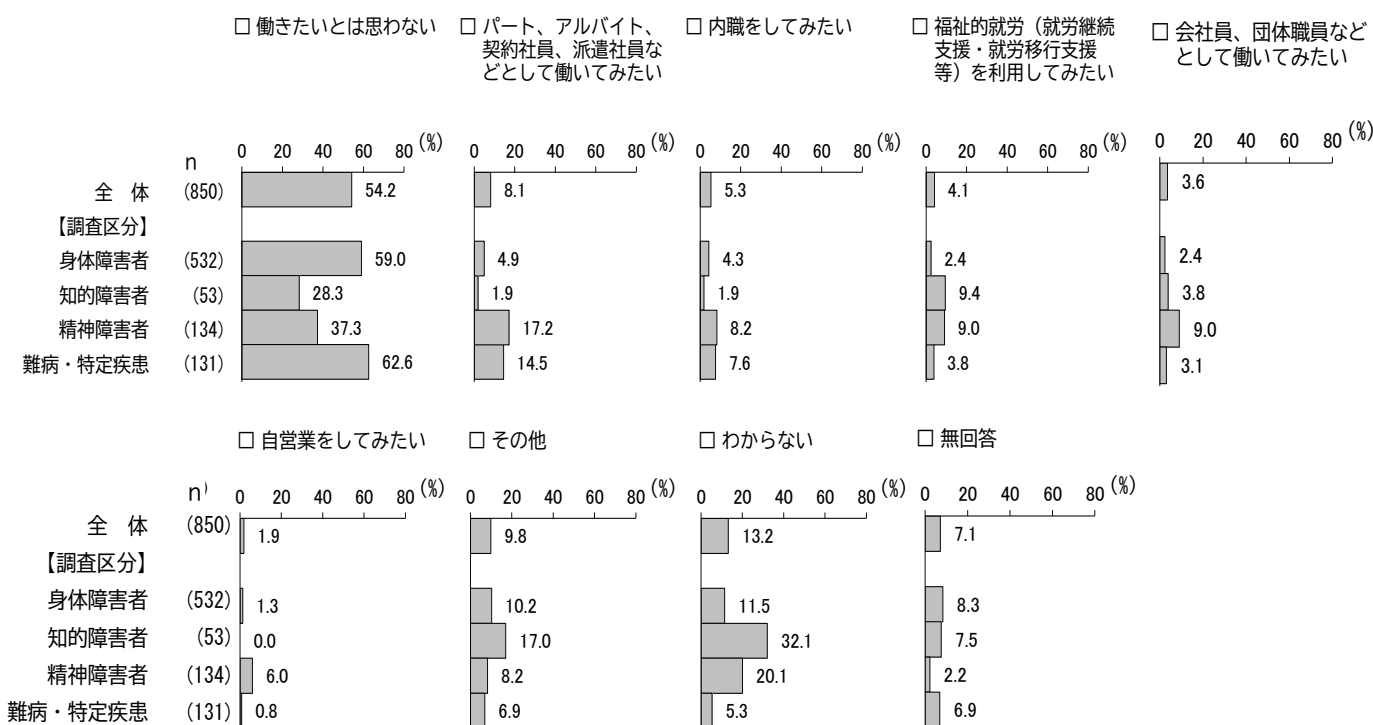
本人の就労状況は、何らかの形で『働いている』人が41.3%となっている。就労の形態としては、知的障害者では「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用している」が、精神障害者では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」が、難病・特定疾患では「会社員、団体職員などとして働いている」がそれぞれ他の区分より高くなっている。一方、身体障害者では「働いていない」が高くなっている。

『働いている』（計）

		回答者数（n）	会社員、団体職員などとして働いている	自営業をしている	パート、アルバイト、派遣社員などとして働いている	内職をしている	福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用している	その他	働いていない	無回答	『働いている』（計）
	単位：%										
	全 体	1639	16.8	4.5	12.6	0.1	7.3	2.4	51.9	4.5	41.3
調査区分	身体障害者	827	13.2	6.5	7.5	0.1	0.8	1.9	64.3	5.6	28.1
	知的障害者	231	13.9	-	12.6	-	40.3	6.1	22.9	4.3	66.8
	精神障害者	276	14.1	2.5	21.7	-	6.9	2.5	48.6	3.6	45.2
	難病・特定疾患	305	31.1	3.9	18.4	0.3	0.3	0.7	43.0	2.3	54.0

(4) 今後の就労意向【障害者調査のみ】

今後の就労意向としては、精神障害者では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が他の区分より高くなっている。一方、身体障害者と難病・特定疾患では「働きたいとは思わない」が、知的障害者では「わからない」が高くなっている。



（５）通園・通学している障害児の父母の就労状況【障害児調査のみ】

父親の就労状況は「正社員として働いている」が87.3%を占め、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた『就労中』は88.3%となっている。

母親の就労状況は「正社員として働いている」が25.9%で、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた『就労中』は53.3%となっている。「働いていないが、できれば働きたい」は26.4%となっている。

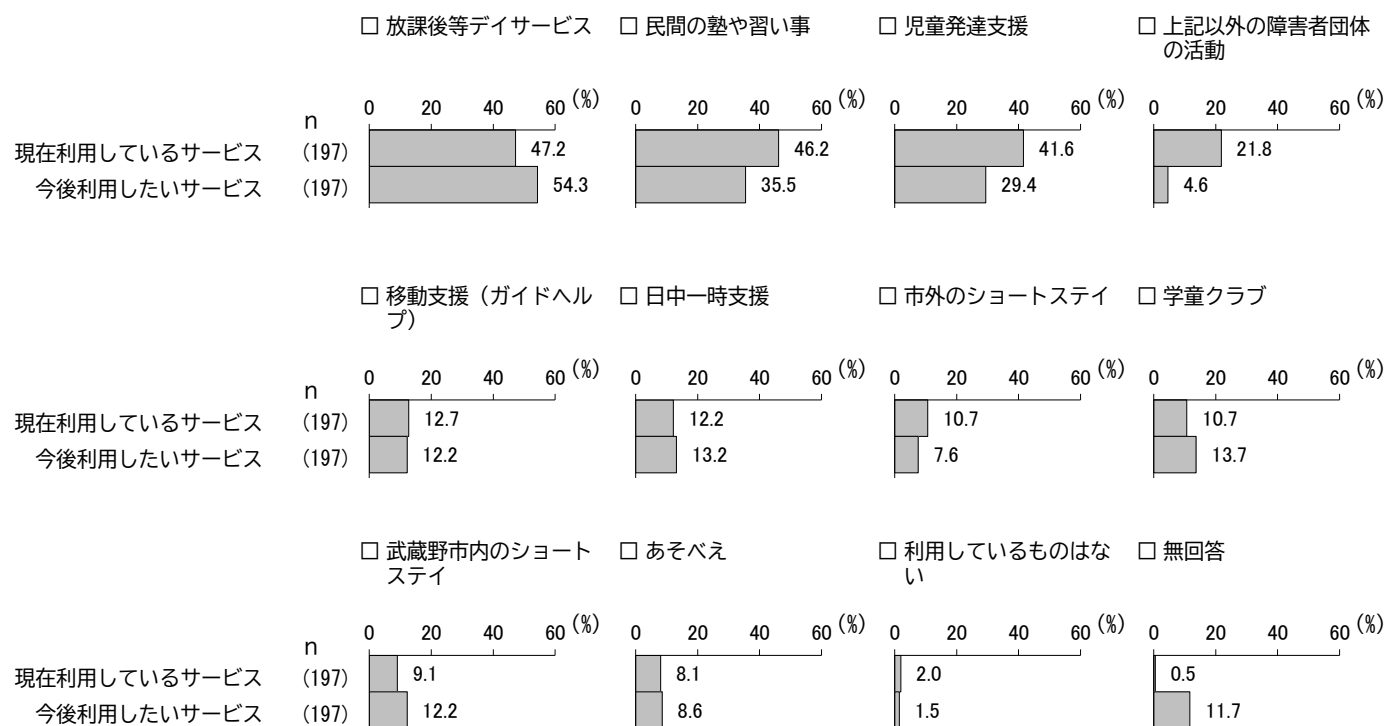
『就労中』（計）

	回答者数（n）	正社員として働いている	パート・アルバイトなどで働いている	働いていないが、働きたい	働いていないし、働きたい	その他	父親はいない	無回答	『就労中』（計）
単位：%									
父親	197	87.3	1.0	-	0.5	6.1	4.6	0.5	88.3
母親	197	25.9	27.4	26.4	13.7	6.6	-	-	53.3

（６）通園・通学している障害児の日中・放課後・休日などのサービス利用状況【障害児調査のみ】

サービスの利用状況では、「放課後等デイサービス」（47.2%）、「民間の塾や習い事」（46.2%）、「児童発達支援」（41.6%）が上位を占めている。今後利用したいサービスについても、上位3項目は同様に「放課後等デイサービス」（54.3%）、「民間の塾や習い事」（35.5%）、「児童発達支援」（29.4%）となっている。一方、今後の利用希望では新たに「学童クラブ」（13.7%）が4位に挙がっている。

現在の利用状況と比べ、今後の利用希望が相対的に高い項目として、「放課後等デイサービス」「学童クラブ」「武蔵野市内のショートステイ」が挙げられる。



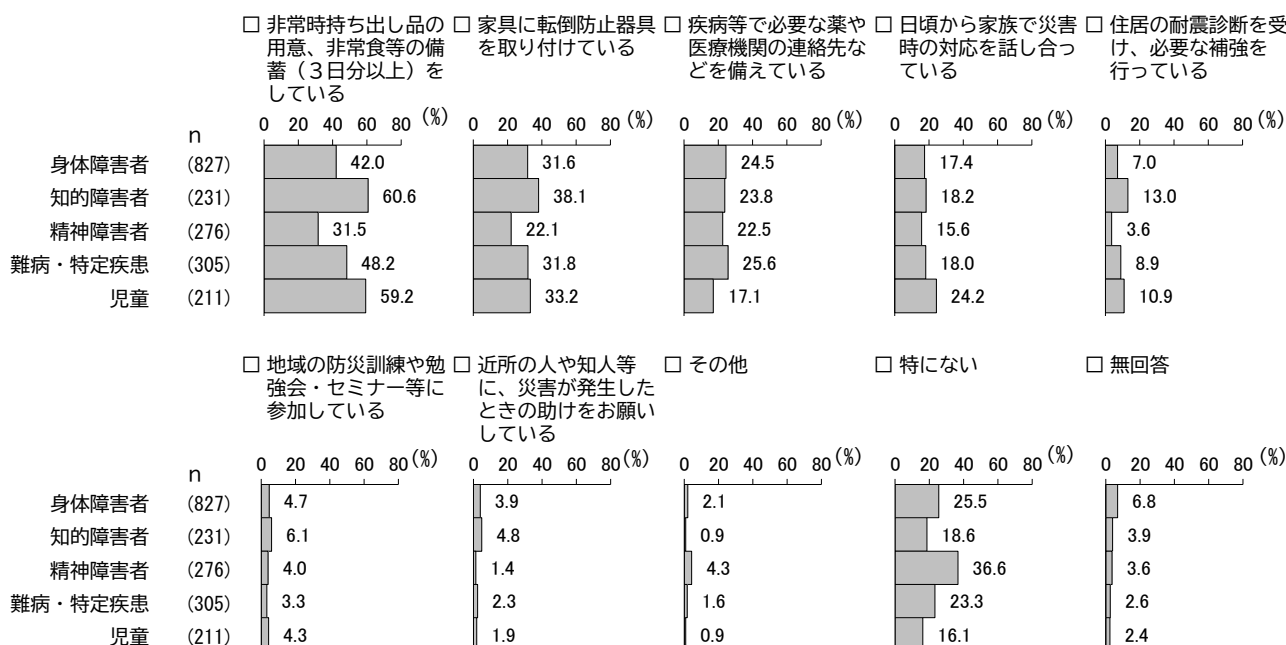
(7) 災害時の不安

災害時の不安について、身体障害者では「できるだけ自宅で避難してきたいが水や食料が入手できるか不安がある」や「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」が上位を占め、知的障害者と児童では「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」が最も高い。精神障害者と難病・特定疾患では「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」が最も高く、いずれの調査区分でも自宅避難に関する不安、避難所に関する不安、医療面の不安が上位に挙げられている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	できるだけ自宅で避難してきたいが水や食料が入手できるか不安がある 43.2%	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 37.4%	できるだけ自宅で避難してきたいが災害情報が入手できるか不安がある 23.2%	どこの避難所に行ったら良いかわからない 21.8%	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 20.0%
知的障害者 n=231	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 48.9%	できるだけ自宅で避難してきたいが水や食料が入手できるか不安がある 45.9%	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 32.5%	どこの避難所に行ったら良いかわからない 31.2%	できるだけ自宅で避難してきたいが災害情報が入手できるか不安がある 29.9%
精神障害者 n=276	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 48.2%	できるだけ自宅で避難してきたいが水や食料が入手できるか不安がある 46.7%	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 41.3%	できるだけ自宅で避難してきたいが災害情報が入手できるか不安がある 26.4%	どこの避難所に行ったら良いかわからない／できるだけ自宅で避難してきたいが一人では不安がある ともに 23.6%
難病・特定疾患 n=305	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 51.5%	できるだけ自宅で避難してきたいが水や食料が入手できるか不安がある 39.3%	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 24.9%	できるだけ自宅で避難してきたいが災害情報が入手できるか不安がある 21.3%	どこの避難所に行ったら良いかわからない 15.4%
児童 n=211	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある 47.4%	できるだけ自宅で避難してきたいが水や食料が入手できるか不安がある 32.2%	特にない 22.7%	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある 19.9%	できるだけ自宅で避難してきたいが災害情報が入手できるか不安がある 18.5%

(8) 災害時の備え（上位8項目+特にない、無回答）

災害への備えとして、いずれの調査区分でも「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分以上）」をしている」や「家具に転倒防止器具を取り付けている」、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が比較的多く挙げられており、知的障害者と児童では「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日分以上）」をしている」が約6割と高い割合を占めている。一方、「特にない」は精神障害者で36.6%と最も高くなっている。



(9) 障害福祉サービスの利用状況

障害福祉サービスの利用状況では、身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患では「利用していない」が最も高く、特に難病・特定疾患では約9割を占めている。知的障害者では「移動支援」が最も高く、「生活介護」や「就労継続支援B型」、「共同生活援助」などのサービスが上位に挙がっている。児童では「放課後等デイサービス」や「児童発達支援」の利用割合が高い。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	利用していない 72.1%	居宅介護（ホームヘルプ） 7.5%	生活介護 3.4%	短期入所（ショートステイ） 3.0%	自立訓練（機能訓練） 2.8%
知的障害者 n=231	移動支援（ガイドヘルプ） 24.2%	利用していない 23.8%	生活介護／就労継続支援B型 ともに 22.9%	共同生活援助（グループホーム） 22.1%	短期入所（ショートステイ） 15.2%
精神障害者 n=276	利用していない 60.5%	自立生活援助 5.8%	就労継続支援B型 5.4%	居宅介護（ホームヘルプ）／計画相談支援 ともに 5.1%	就労定着支援 4.7%
難病・特定疾患 n=305	利用していない 88.5%	居宅介護（ホームヘルプ） 3.0%	療養介護 2.0%	短期入所（ショートステイ） 1.6%	施設入所支援 1.3%
児童 n=211	放課後等デイサービス 46.4%	児童発達支援 38.4%	利用していない 13.7%	日中一時支援 10.0%	障害児相談支援 7.6%

(10) 利用できていないサービス

利用できていないサービスについては、いずれの調査区分でも「利用できていないサービスはない」が最も高い割合を占めており、特に難病・特定疾患では65.9%となっている。一方、知的障害者と児童では、他の調査区分と比べて利用できていないサービスを挙げた割合が相対的に高く、知的障害者では「共同生活援助」や「移動支援」、「短期入所」などが、児童では「移動支援」や「日中一時支援」、「短期入所」などが上位に挙げられている。身体障害者では「居宅介護」や「短期入所」、精神障害者では「自立訓練」や「居宅介護」「同行援護」が上位となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	利用できていないサービスはない 50.3%	居宅介護（ホームヘルプ） 2.2%	短期入所（ショートステイ） 2.1%	生活介護 1.9%	日中一時支援 1.8%
知的障害者 n=231	利用できていないサービスはない 42.4%	共同生活援助（グループホーム） 18.6%	移動支援（ガイドヘルプ） 10.8%	短期入所（ショートステイ） 8.2%	施設入所支援 7.8%
精神障害者 n=276	利用できていないサービスはない 54.0%	自立訓練（生活訓練） 4.0%	居宅介護（ホームヘルプ）／同行援護 ともに 3.3%	就労継続支援A型 2.9%	自立生活援助／就労定着支援／就労選択支援 いずれも 2.5%
難病・特定疾患 n=305	利用できていないサービスはない 65.9%	居宅介護（ホームヘルプ） 2.3%	日中一時支援 2.0%	移動支援（ガイドヘルプ）／同行援護／自立訓練（機能訓練） いずれも 1.6%	短期入所（ショートステイ）／生活介護／就労移行支援 いずれも 1.3%
児童 n=211	利用できていないサービスはない 53.6%	移動支援 19.0%	日中一時支援 10.4%	短期入所 8.5%	放課後等デイサービス 7.1%

(11) 障害福祉サービスを利用する際の不便

障害福祉サービスを利用する際の不便として、身体障害者と難病・特定疾患では「特にない」が最も高い一方、知的障害者、精神障害者、児童では「何が利用できるのかわからない」が第1位となっている。いずれの調査区分でも「サービスに関する情報が少ない」が上位に挙げられており、「サービスを利用するための手続きが大変」も多くの調査区分で高くなっている。児童では加えて「事業所との利用日時などの調整が大変」といった項目の割合が比較的高い。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	特にない 41.5%	何が利用できるのかわからない 27.8%	サービスに関する情報が少ない 17.8%	サービスの利用方法がわかりづらい 8.3%	サービスを利用するための手続きが大変 6.5%
知的障害者 n=231	何が利用できるのかわからない 31.2%	特にない 29.9%	サービスに関する情報が少ない 26.4%	サービスを利用するための手続きが大変 19.5%	サービスの利用方法がわかりづらい 16.0%
精神障害者 n=276	何が利用できるのかわからない 42.4%	特にない 24.3%	サービスに関する情報が少ない 23.9%	サービスの利用方法がわかりづらい 14.5%	他人を家に入れることに抵抗がある 12.7%
難病・特定疾患 n=305	特にない 45.6%	何が利用できるのかわからない 31.1%	サービスに関する情報が少ない 19.0%	サービスの利用方法がわかりづらい／サービスを利用するための手続きが大変 ともに 7.5%	他人を家に入れることに抵抗がある 7.2%
児童 n=211	何が利用できるのかわからない 33.6%	サービスに関する情報が少ない 32.7%	サービスを利用するための手続きが大変 29.9%	事業所との利用日時などの調整が大変 28.0%	特にない 24.2%

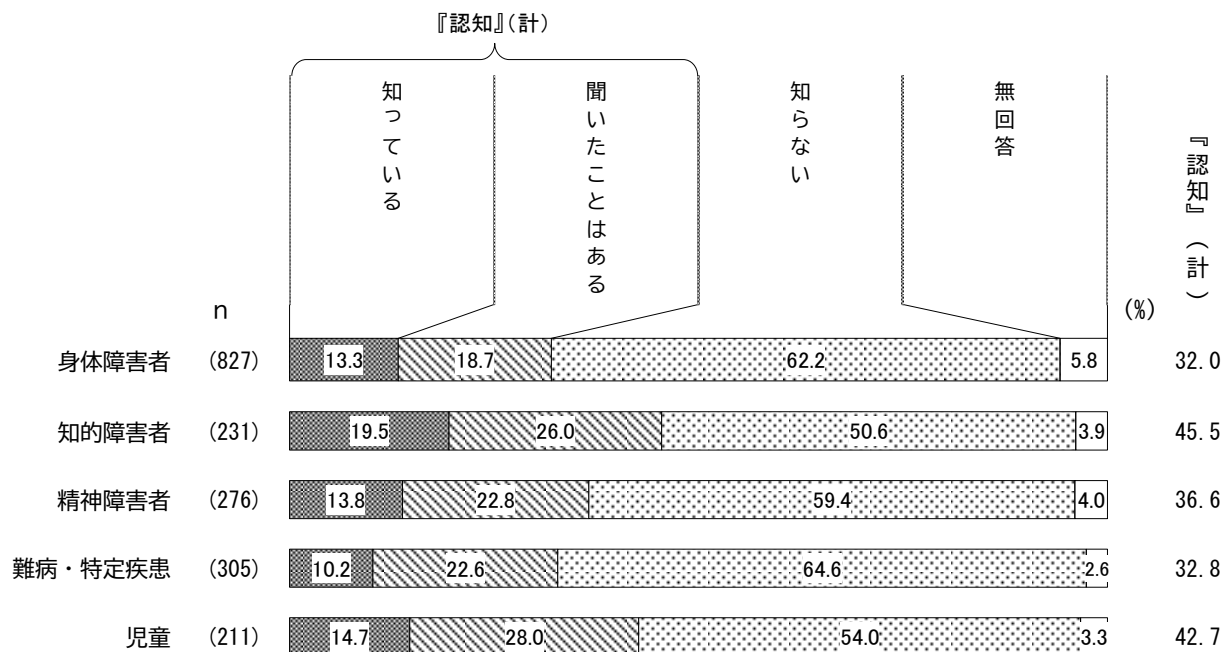
(12) 将来の生活における不安と必要な支援

将来の生活における不安と必要な支援について、身体障害者では「日常生活の支援」や「健康管理・医療的ケアの支援」、「経済的な支援」が上位に挙げられている。知的障害者では「日常生活の支援」や「相談支援」、「健康管理・医療的ケアの支援」の割合が高く、住まいや家族・支援者への支援も多く選ばれている。精神障害者では「経済的な支援」や「相談支援」に加え、「日常生活の支援」や「心のケア・メンタルサポート」が上位となっている。難病・特定疾患では「健康管理・医療的ケアの支援」や「経済的な支援」、「日常生活の支援」などが挙げられている。児童では「学校・教育での支援」や「将来の生活・住まいの支援」、「就学後・社会参加や就労の支援」が上位を占めている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者 n=827	日常生活の支援 39.4%	健康管理・医療的ケアの支援 33.1%	経済的な支援 26.5%	相談支援／家族・支援者への支援 ともに 23.2%	行政や地域の制度・サービスに関する情報提供 20.8%
知的障害者 n=231	日常生活の支援 57.6%	相談支援 55.4%	健康管理・医療的ケアの支援 49.4%	住まいに関する支援 41.6%	家族・支援者への支援 40.7%
精神障害者 n=276	経済的な支援 45.3%	相談支援 44.2%	日常生活の支援 41.3%	心のケア・メンタルサポート 39.9%	健康管理・医療的ケアの支援 35.1%
難病・特定疾患 n=305	健康管理・医療的ケアの支援 37.7%	経済的な支援 34.1%	日常生活の支援 33.4%	家族・支援者への支援 30.2%	行政や地域の制度・サービスに関する情報提供 27.2%
児童 n=211	学校・教育での支援 53.6%	将来の生活・住まいの支援 48.3%	就学後・社会参加や就労の支援 47.4%	短期間預けられる支援 35.1%	家族やきょうだいへの支援 33.2%

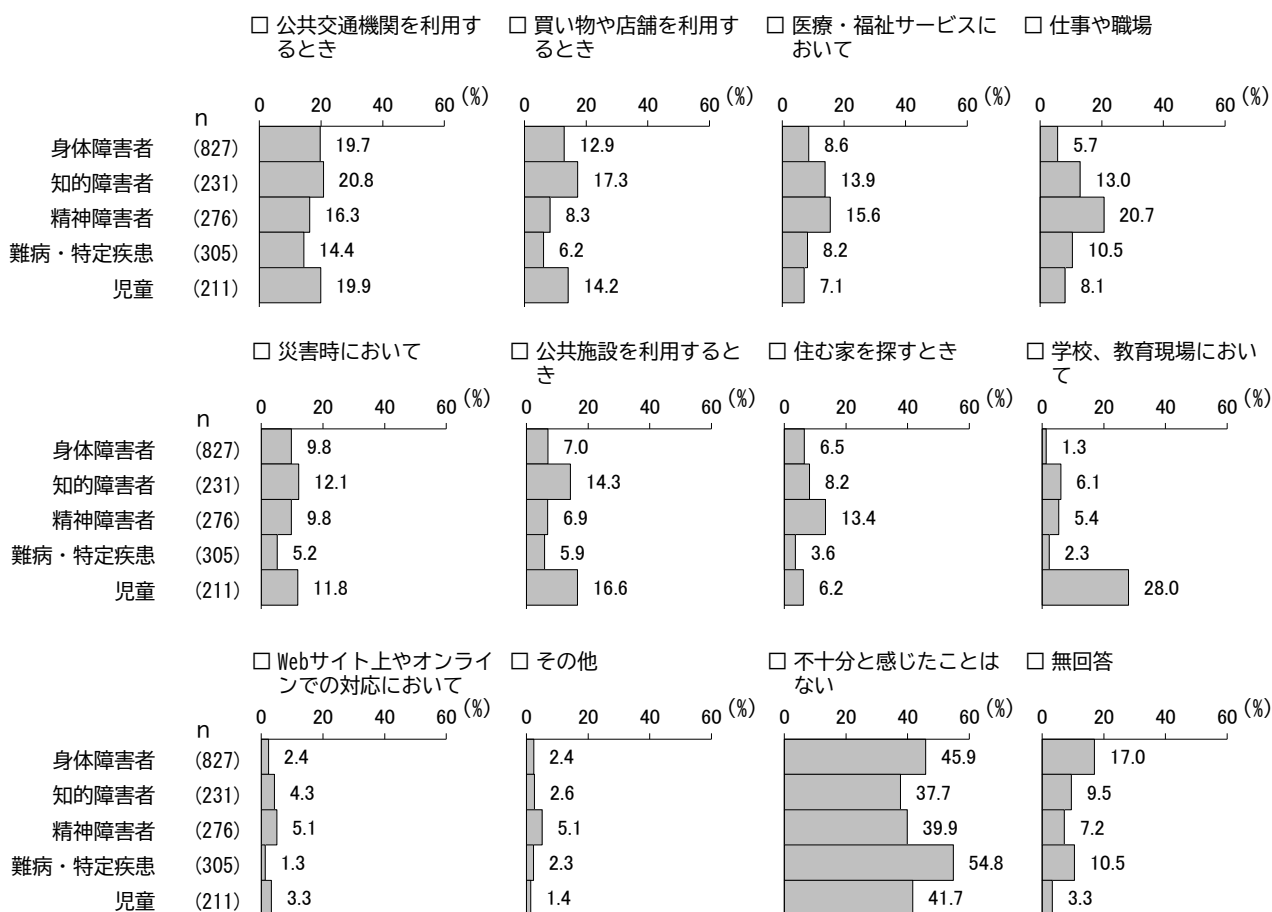
(13) 障害者差別解消法について

障害者差別解消法の認知状況は、いずれの調査区分でも「知っている」は1割台となっており、『認知』も3割から4割となっている。



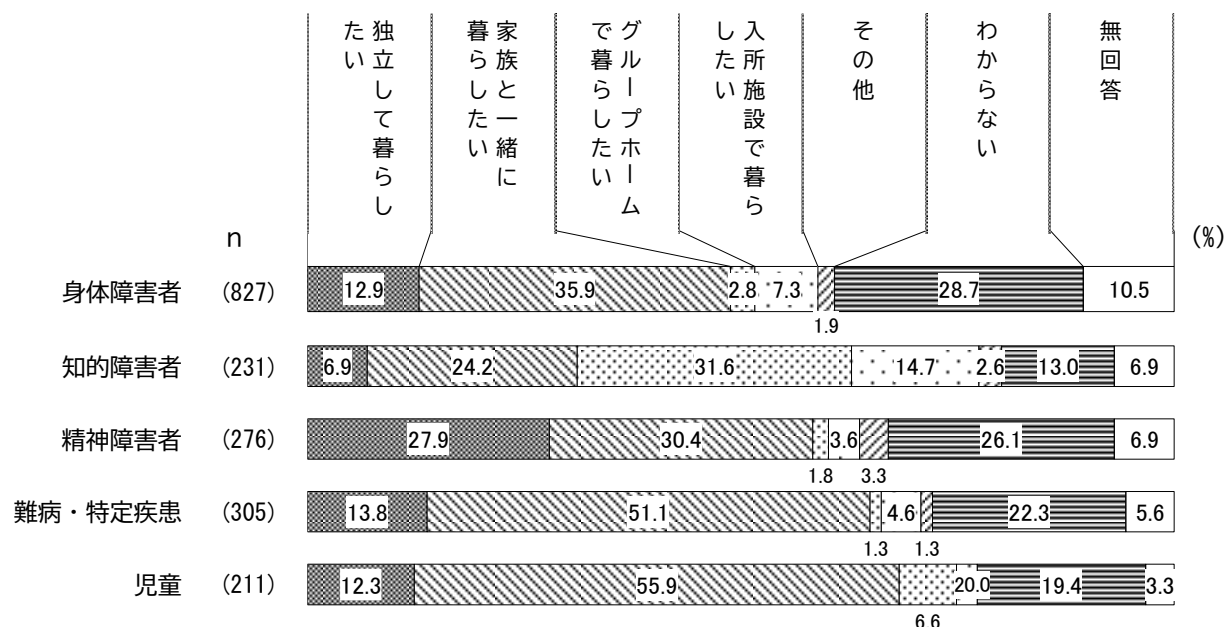
(14) 合理的配慮が不十分だと感じる場面

合理的配慮が不十分だと感じる場面として、いずれの調査区分でも「公共交通機関を利用するとき」が比較的高い割合で挙げられており、「買い物や店舗を利用するとき」や「公共施設を利用するとき」など、日常生活に身近な場面も共通して上位にみられる。また、精神障害者では「仕事や職場」が他の調査区分より高く、児童では「学校、教育現場において」が突出して高い。一方、「不十分と感じたことはない」と回答した割合はいずれの調査区分でも一定程度を占め、特に難病・特定疾患では過半数となっている。



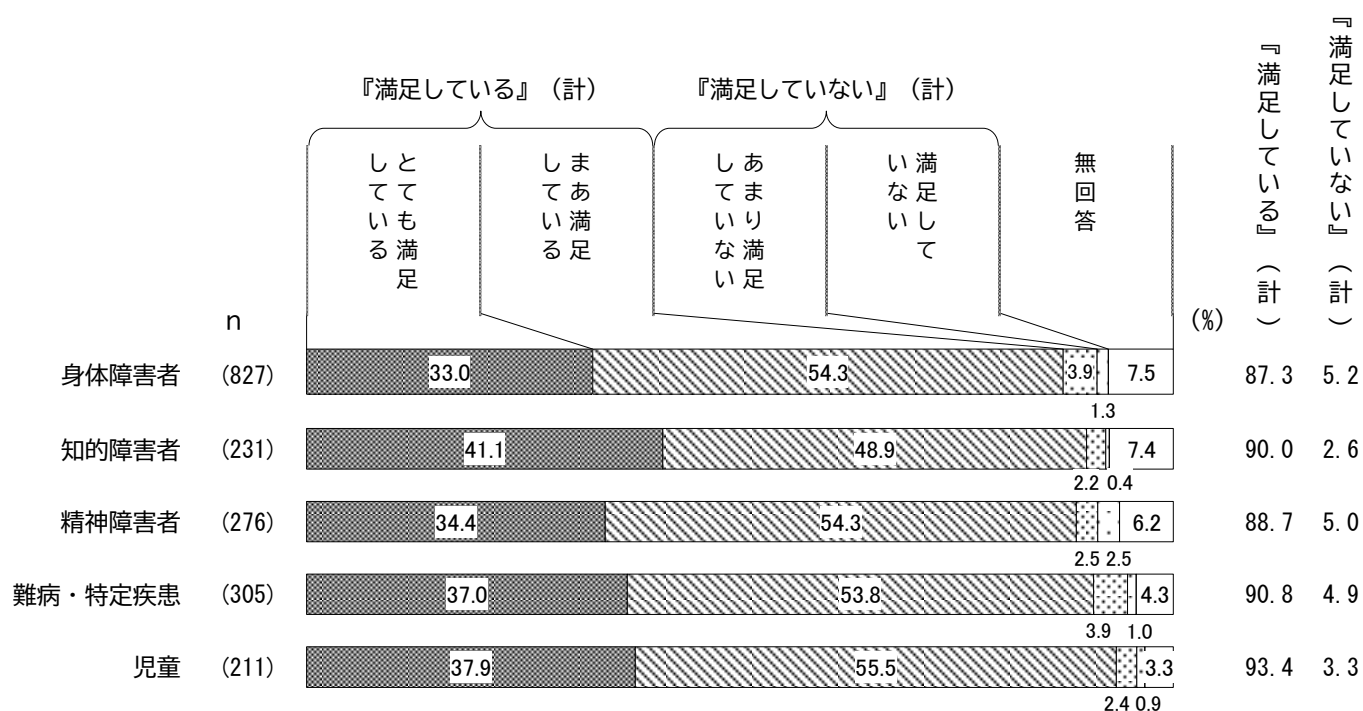
(15) 10年後の暮らし方

10年後の暮らし方について、身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患、児童では「家族と一緒に暮らしたい」が最も高い割合を占めている。知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が31.6%で最も高く、「家族と一緒に暮らしたい」や「入所施設で暮らしたい」も一定割合みられる。精神障害者では「家族と一緒に暮らしたい」に次いで「独立して暮らしたい」が高い割合となっている。また、いずれの調査区分でも「わからない」と回答した割合が一定程度みられる。



(16) 武蔵野市での暮らしの満足度

武蔵野市での暮らしの満足度は、『満足している』は、いずれの調査区分でも 8 割から 9 割となっている。また知的障害者では「とても満足している」が41.1%と高くなっている。



(17) 充実すべき障害者福祉施策

充実すべき障害者福祉施策として、身体障害者では「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」や「地震や台風など災害時の支援体制の整備」が上位に挙げられている。知的障害者では「住宅の整備、住宅探しの支援」が突出して高く、「通所後や日中の居場所の確保（大人のための）」や「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」、「発達障害のある方への支援」も高い。精神障害者では「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」が最も高く、「住宅の整備、住宅探しの支援」も上位となっている。難病・特定疾患では「地震や台風など災害時の支援体制の整備」や「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」が上位に挙げられている。児童では「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス」や「発達障害のある方への支援」が上位を占め、「未就学児への支援」、「住宅の整備、住宅探しの支援」、「就労支援」も比較的高くなっている。

